

【夢への距離感】

法政大学社会学部 4年 (Y.M.)



「俺は6年後、浦安市長になって若者が希望を持てる社会を作る。」

私は初日の自己紹介で夢を宣言した。しかし、志の高い者と5泊6日を共にして、描く夢と自分の実力が乖離していることを痛感した。特に、政策提言のグループメンバーは課題に対するアプローチ方法やフェーズの分け方が正確だった。常にデータや数値を根拠として目的を明確にしていたのだ。加えて、知識やデータが無くても探求心を持ち“知恵”で食らいついていた姿が印象に残っている。

私には知識や引き出し、細分化する力が圧倒的に不足していたと思う。正直不甲斐なく、悔しかったが、この1週間で自分の未熟さ・弱さ・場数の少なさに気付けた。一方で、課題をどこまで細分化すれば政策に説得力が増すかを学べた。私の人生にとって、今回のインターンシップ生10人から貰った数えきれない学びと達成感、刺激は大きな財産である。この経験が無駄にせず、まだまだ遠い自分の夢を叶えていきたい。

【インターンシップ中の気づき】

東京大学大学院新領域創成科学研究科

修士2年 (Y.O.)



最終日の政策発表会が近づく中で、この日我々は市の特徴である神楽や道の駅を「持続可能なまちづくり」にどう役立てるか議論していました。構想が固まりつつあった私のチームは、より現実的な提案を行うため予算書や財政報告書をあたることになり、何の背景知識もない私は数々の専門用語と格闘する時間が続きました。ただ何となく、この町に大切な要素を議論の中で見落としているような気だけがしていました。

買い出し役を引き受けて宿舎の外に解放された私はAコープまでの道すがら、この町での体験について改めて考えていました。写真はそのときの風景です。たったの6日間滞在したのみでは、安芸高田の本当の魅力には気づくことができないのかもしれませんが、それでも私はこのプログラムを通して、市で働く方々こそが「持続可能なまちづくり」の核であると思い至りました。そしてこの町で活躍する全ての人々こそが、安芸高田の魅力となっているはずなのです。

【凡庸な私に与えられた機会と権利】

金沢大学人間社会学域地域創造学類 4年 (T.Y)



最も学びが多かったのはグループワークでした。多様な背景を持つ個性豊かな参加者が集い、行われました。日常会話や政策提言における解決策提案といった場面で、私の考えが及ばない点に疑問を持ち、意見を交わす姿に何度も遭遇しました。私は年を重ねるにつれ、無意識に関わる属性が限定され、視野と交友関係が狭まっていることに気づかされました。同時に凡庸さを自覚しました。最終政策提言は合格点とは言えませんでした。「事実確認不足」「現状を示すデータ不足」「梗概の説明不足」といった問題点が私にあり、準備不足が浮き彫りになりました。今回の経験を、現状の能力を示した機会と捉えます。そして平凡は非凡に挑戦する権利があり、挑み続けなければならない思うに至りました。将来小布施町の首長になるために、狭まる視野と交友関係を意識的に広げます。そして此度挑戦した経験を糧に、更に試行錯誤を重ねたいと思います。

【牧場で考えるキャリアと地方創生】

東京大学大学院工学系研究科修士2年 (R.Y)



インターンシップ3日目には、農林水産省出身で現在牧場を営んでいる田島さんにお話をうかがいました。私の思い出に残った一枚は、田島さんの牧場を見学したときの風景です。キャリアのお話で特に印象に残ったのは、これまで努力して築いたキャリアを手放すことへの躊躇いの気持ちと、牧場を始めるという決断に至る経緯についてのお話でした。私も、これまで自分が取れる選択肢のうちで一番安定的と思える選択をしてきた一方で、人生のうちに様々なことに挑戦してみたいという気持ちがあります。それらに折り合いをつけなければならないという思いの中、田島さんのお話に共感しました。また、酪農の情勢をうかがって、供給量の調整に時間がかかることが農林業に共通する難しさだと感じました。地方創生について考える一週間を過ごし、農林業特有のリスクを外部に移転できるしくみを様々な主体が作っていくことが不可欠だと感じました。

【地域の方々と喜びを分かち合えたかけがえのない瞬間】

一橋大学商学部 4年(Y.K)



私が5泊6日のインターンシップを通して最も思い出に残ったのは9月2日(土)のサンフレッチェ広島 vs サガン鳥栖戦のパブリックビューイングです。実はJリーグの試合を観戦するのは人生初の経験でした。そんな私にとっても心の底から楽しむことができました。特に嬉しかったのは地域の方々とゴールの喜びを共有できたことです。地域の皆様の輪に加わられたような感覚になり、気がついたら安芸高田市のファン、サンフレッチェ広島のファンになっていました。その感覚が政策立案のモチベーションへとつながり、最終日は一睡もせずに政策立案の発表の準備をしていました。本当に短い時間でしたが、安芸高田市で過ごした時間は忘れません。関係者の皆様、ありがとうございました！

【緑の交流館における共同生活】

九州大学大学院工学府1年 (H.I)



今回のインターンシップで特に印象に残っているのは、緑の交流館における共同生活だ。もちろん、市内視察、市長のレクチャー、神楽鑑賞なども記憶に残っている。しかし、5泊6日を同じ空間で過ごした仲間との時間はとても充実していたと思ったため、この場面を選択した。

今回のインターンシップでは、全国各地から熱い気持ちを持った仲間が参加していた。この期間では、それぞれがその思いを打ち明け、自然とそれについて議論が開始されることが多々あった。

この写真は、偶然この期間に放映された、市長が出演している番組を皆で見ている写真だ。この時も、テレビで話されている内容について議論が巻き起こった。

私はこれまで、議論というものをあまりしたことがなかった。他人の意見を理解し、自分の意見を述べることでさらに、自分の思考も洗練されたと思っている。この経験は自分の人生の大きく影響したと感じた。

【笑顔溢れた6日間】

三重短期大学生活科学科2年（M.O.）



市長からプレゼンや自己紹介のフィードバックを1人1人丁寧にさせていただき勉強になりました。特に印象に残ったのはゼークトの組織論です。
写真は神楽門前湯治村での1枚です。街並みが美しく、ゆったりした雰囲気
に癒されました。
コスプレをされている方がいて感動しました。

全国各地から初めて出会った同年代の方々と6日間かけて協力し無事
政策提言をすることができました。
素晴らしい機会を与您いただきありがとうございました。

みなさんぜひ魅力溢れる安芸高田市にいらしてください♪

【宿泊棟パブリックビューイング】

広島大学文学部 4年 (S.T.)



上記の写真は、合宿二日目に、宿泊棟において、バスケットボール日本代表のワールドカップの試合をパブリックビューイングした際の写真です。パリ五輪出場権をかけ、過去最高のチームで世界と戦った日本代表の熱い試合にみんなで熱狂しました。合宿二日目という事もあり、徐々にお互いを理解しあった中でのスポーツ観戦は、より打ち解けることにつながりました。もちろん政策提言、市長レクチャー、地域住民との交流等のプログラムも貴重な経験でした。しかしそれでも、何気ない共同生活での一瞬一瞬が、僕にとってかけがえのない合宿の思い出です。素敵な環境で、素敵な仲間とともに絆を深め、時には熱く、時には冷静に、本気で取り組んだ5泊6日は僕の一生の財産であり続けます。最高の仲間に乾杯！本当にありがとうございました。

【憩いの場、神楽門前湯治村！】

広島市立大学国際学部3年（R.K.）



安芸高田市にある神楽門前湯治村の夜の街並みです。ここでは、神楽ドームで神楽を楽しむことができ、温泉やサウナを堪能することができます。また、安芸高田市の名物である“夜叉うどん”や“縄文アイス”も食べることができます。夜叉うどんは、安芸高田市の特産青ネギがたっぷりのっているうま辛が特徴の一品、縄文アイスは、安芸高田市産の古代米やもち麦を使用した優しい味わいの一品でした。宿泊施設もあるため、丸一日以上安芸高田市で過ごすことができる、最高の場所です！

おすすめは、定期的に行われている神楽を楽しむ前後の街並み散歩です。明かりが灯った夜はお昼とはまた違った表情を見ることができます。日本の古風な街並みの中に入り込むことができ、レトロな看板が浮かび上がります。インターンシップ期間中の拠点となる宿泊施設から最短徒歩5分で到着できる、ここ神楽門前湯治村は、みんなの憩いの場です！



インターンシップでは様々な刺激を経験することが出来た。そのため、シャッターチャンスが多い分、ひとつに選ぶことは非常に困難であった。けれども、数ある中でこの写真が最も印象深かった。様々なメディアを通してこの議会を見ていたが、実際に自らの目で見てみると、全く異なる印象があった。とても色鮮やかで、広々とした厳かな空間だと感じた。また、安芸高田市を知るきっかけとなった議会という場所に実際に足を踏み入れることで、政治がいかに行われるかという既知の知識に重なり、とても有意義なものとなった。

【地域コミュニティの強化に向けたサンフレッチェ広島の役割】

千葉大学大学院園芸学研究科 1 年 (Y.I)



持続可能な安芸高田市の実現のためには、「地域の強みを活かし、若年層と中高年層が繋がる」ことが重要です。その上で、道の駅三矢の里でのサンフレッチェ広島のパブリックビューイングは、理想的な取り組みだと感じました。地域の人々が一つの場所に集まり、お酒を片手に、得点時には皆で喜ぶ。こうした事業は、地域の結びつきを深め、共感を生み出す絶好の機会です。過去に、パブリックビューイングを通じて、仲良くなった老夫婦がいたことを思い出しました。私の地元では、夏祭りの夜にパブリックビューイングが開催されていました。中学生の頃、偶然隣り合った 70 歳を超えた老夫婦と勝利の喜びを共にしました。これをきっかけに、この老夫婦との関係は今でも続いています。私はこのような地元が大好きです。私の経験とも重ねて、サンフレッチェ広島を通じて、地域の人々のつながりを深めることは、安芸高田市の未来に向けた大きな一歩と確信しています。